

令和5年6月5日

清水町議会議長 山下清美様

清水町議会厚生文教常任委員会
委員長 川上均

所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項 (1) 図書館・郷土史料館の現状について
 (2) しみず認定こども園の現状について
 (3) 葬斎場の現状について

2. 調査期日 令和5年4月28日

3. 調査の結果

3カ所の町所管施設の運営状況を把握するために、施設を訪問し調査することにより理解と知識を深め、今後の議会活動に資することを主な目的とし行った。

(1) 図書館・郷土史料館の現状について

図書館の施設概要、蔵書数、利用状況、年間事業などについて話を聞き、その後に施設を見学し説明を受けた。

利用状況については、コロナ過もあり利用者が減少、なかなか回復していない。また、蔵書の紛失を抑止する目的で防犯カメラを設置予定であること、町内の読書サークルによる本の読み聞かせ等を行って

いる。図書の購入予算について、比較は難しいが、人口一人当たりの購入額が、令和3年度で清水町は395円、新得町は880円、芽室町は500円であり、決して高くはないという状況である。

郷土史料館は開館以来、図書館職員が業務を兼務しているため、専門知識や知見を有せず、運営の活性化に困難が生じていると思われる。郷土史料館や教育委員会では、収蔵する資料の紹介や保存等を実施してきたが、令和5年度には学芸員として地域おこし協力隊員を配置し、未整理資料の活用を図り、郷土理解を深め、郷土史を町内外の人に紹介する拠点として活性化に努めていくとのことであった。しかし、募集者は地域おこし協力隊であり、ハードルが高く応募しづらいという状況がある。

(2) しみず認定こども園の現状について

施設見学をし、こども園設置についての経過、所管官庁、教育方針、1号・2号認定への対応、職員数、給食内容などについて説明を受けた。

しみず認定こども園は、令和5年4月1日に設置が認可され、4月4日から運用が開始されている。裸足保育については、多目的ホールで遊ぶ時や、リズム遊びをする時など、常にではないが状況によって裸足になって活動することがある。なお、外で水遊びする時には怪我防止としてサンダルをはかせている状況である。また、食育として敷地内に畑があり、清水高校生と一緒に耕し、野菜の種を撒き、収穫したものを給食の献立に加えて、自然に関わる力と食べるありがたさを育んでいる。

施設の今後について、今後少子化で空き教室が出た場合は、ひろば事業を実施するなど、小さいお子さんたちが安全に遊べる場所として、提供することも考えられるとのことである。

給食については、令和3年度に委託したときから、コロナ禍の時期を除き給食試食会を実施しており好評を得ている。

(3) 葬斎場の現状について

施設概要、運営・利用状況、今後の建て替え計画などについて説明受け、施設を見学した。

令和8年度に施設の使用が50年目を迎え、かなり老朽化しているため、令和9年度供用開始の計画で新葬斎場を建設するのが望ましい。ただ、随時メンテナンスは必要だが、今すぐ施設を新しくしなければならないという状況ではないと考えられる。

【総括】

(1) 図書館について、必ずしも図書購入額などの予算で町の文化度を測るものではないが、今後の蔵書の充実・強化を期待したい。

郷土史料館では、郷土史研究会の協力を得たりしながら、施設整備の体制を作ってはどうか。また、郷土資料館に学芸員を置くために、郷土学習支援員を地域おこし協力隊の募集で配置する考えであるが、資料の取捨選択というのが大きいのと思われ、清水のことを知らない人が来て価値を判断できるのかという不安要素もある。これらを踏まえ、収蔵品の歴史的価値の評価等など将来に亘り町の歴史的文化を支える重要性からも、地域おこし協力隊といった一時的な配置ではなく、永続的な学芸員の配置が望まれる。

(2) しみず認定こども園は、綺麗で雰囲気明るく、駐車場も広いなど色々な面で高い評価である。この状況を持続して、子育てで近隣の町村に負けないような子育て環境作りの継続を期待したい。

(3) 葬斎場については、建物は老朽化しているが、綺麗に整備されて使用されている。令和9年度に建て替えを予定したいとのことであるが、しっかりと計画立てていく必要がある。

以上、厚生文教常任委員会の所管事務調査の報告とする。